

あらかわ
ものづくり

歴史的な産業集積から生まれる… 荒川区の「ものづくり」の実力とは



区名	数	主要業種
足立区	30	産業機械、金属製品
荒川区	27	産業機械、金属製品
葛飾区	24	産業機械、金属製品
板橋区	24	印刷、光学機器など
江戸川区	21	産業機械、金属製品

表彰企業中イノベーション発生企業
(鈴木孝男教授集計)

コミュニティバスの町屋ルート 11月1日から運行開始へ

区議会にコミュニティバスの町屋ルート運行について報告がありました。

名称 (仮称) 町屋さくら
事業者 京成バス(株)
ルート 新三河島 3
06号線 熊野前 原河
岸通り 五中前 町屋駅
新三河島
運行時間 20分間隔
運行時間帯 6時台～21時台
運賃は現行さくらと同じです。



東京信用金庫協会の会員表彰企業で、区内企業が強いパフォーマンスを発揮

鈴木孝男教授(千葉商科大学)は、東京都信用金庫協会の「会員企業表彰制度(城南信金が不参加)」「(1987年)の表彰企業約2000社を調査。その分析結果をまとめた論考では「表彰企業の内城東地域の製造業(特に機械・金属関係)の表彰後のパフォーマンスが優れている」としています。また中でも荒川区・葛飾区の表彰企業の比率が高く実績が良好であると指摘(「中小工研究112号」より)。その

理由として「城東地域という古い産業集積地」における中小企業は、かつての職人が持つていた自主裁量権が創造性の発揮、あるいはイノベーション(新しい品質・生産方法などの創出...)という形で現代的に進化していると言います。

鈴木孝男教授が調べた約2000企業中22.4%がイノベーションを発生させたとして、その中でも荒川区、葛飾区が上位を占めて(左表)います。

今後荒川区の産業、とりわけものづくりの活性化をめざす上で参考になります。同時に区の支援体制の抜本的強化が急がれます。

荒川区議会第三回定例会が開かれます

9月11日～10月9日にかけて荒川区議会が開かれます。大震災もうけ区の放射能対策、原発ゼロ、消費税増税への対応が問われます。

日本共産党は、横山幸次区議が代表質問に立ちます。

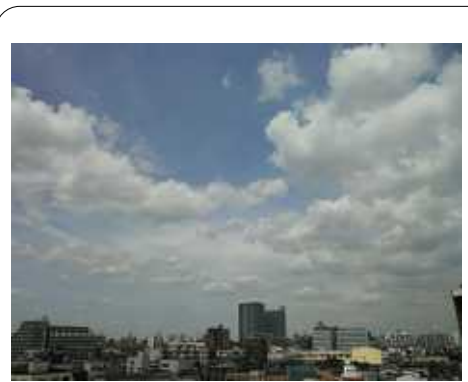
日本共産党荒川区議会議員団

横山幸次

区政報告
ニュース

479
2012年9月2日
発行 日本共産党区議団
3802-4627
fax3806-9246
x-raajcp@tcn-cat
v.ne.jp
町屋相談室
荒川区町屋5-3-5
3895-0504
x-yoko1951@aol.jp

横山幸次区議のホームページ・ブログをご覧ください。
「横山幸次」で検索して下さい。



上が少し秋めいた感じの雲です。下は夏真っ盛りの雲...



銘じて、暑さに負けずにがんばらねば...
横山幸次

この猛暑はいつまで続くのか...! それでも空の雲や生き物、風にも秋の気配が

毎日の猛暑にうんざりしておられる方が大多数ではないでしょうか。加えて連日の熱帯夜。お盆明けで仕事もスタートしたが、温暖化など言われていますが、自然は、確実に季節の針を進めています。最近、夕焼けに映える雲がこれまでよりもずっと高いところにあるように思えます。東京にも秋

の気配が漂っています。最近、早朝外に出ると気持ちの良い風が通り抜けます。日がだんだんと短くなることも体感できます。また、生き物たちも少しずつ秋の気配を演出しているようです。最近清流にしか住めないニホンカワウソの絶滅が宣言されました。環境を壊すのも人間なら、守ることが出来るのも人間です。それを肝に銘じて、暑さに負けずにがんばらねば...
横山幸次

裏面 心の健康対策、不活化ポリオワクチン接種など

これからの定例法律相談

9月3日(月)
10月1日(月)
午後6時～8時
横山区議事務所

弁護士と横山区議が相談をお受けします。秘密は厳守します。お急ぎの場合は、北千住法律事務所の相談日などご紹介いたします。
生活相談は、随時受け付けています。
TEL&FAX 3895-0504
不在時は、留守電へ、後で連絡します。
区役所控室 3802-4627



精神疾患の「こころの健康対策」を

共産党都議団が「心の健康政策」を提言

この提言は、党都議団が都に対して、国に先駆けて「こころの健康政策」を都独自に展開し全国に発信することを求めたものです。以下骨子です。区としても考えるべき内容では...

「アウトリーチ（訪問支援）チーム」の設置をすすめる
「地域こころの健康支援センター」を身近な地域に整備する
都と区市の保健師を増やし、保健所を増設・拡充する
早期支援青年期外来「ユースメンタルサポートセンター」を増やす

学校での精神保健教育を抜本的に強化する
47地域における「こころの診療連携拠点病院」を設置する
総合病院の精神科への支援を強化する
外来と入院をつなぐ「宿泊訓練施設（ホステル）」や「短期宿泊施設（ショートステイハウス）」の整備をすすめる
ピアサポーターや「家族支援ワーカー」の養成をはじめ、当事者・家族（介護者）への支援を強化する
災害時における「こころのケア」体制を整備する
「東京都こころの健康政策推進計画」をつくる
「こころの健康を守り推進する基本法」の早期制定を、国にたいし強力に要請する

荒川区議会に「こころの健康を守り推進する基本法（仮称）」の制定を求める陳情が出され、7月12日の福祉区民委員会で審議、全会一致で採択されました。
都内の精神疾患患者数は31万人を超え、入院患者の2割以上は精神疾患患者です。国民の5人の1人が一生に一度は精神疾患にかかると言われています。
厚生労働省は「がん・脳卒中・心臓病・糖尿病」に加えて「5大疾病」としました。
世界保健機関（WHO）が先進国では命と生活に最も影響するのは精神疾患であると明らかにしていますが、その対策が遅れています。



区独自の「訪問支援の体制をつくる
自立生活支援のために「宿泊訓練施設」「短期宿泊施設」を整備すること」などを求めました。
合わせて区の支援センターアゼリアの日暮里や南千住地域への増設も急がれます。

荒川区でも、精神障害保健福祉手帳の交付数は1,285名、自立支援医療（通院）の申請数は3千近くになっています。
共産党区議団は、陳情審査で...
心身障害者福祉手当の対象に入れる
障害者プランと健康プランに「精神障害者の対策」が少し入っているが、精神障害の福祉・保健・医療の総合的計画をつくる。

9月から不活化ポリオワクチン（単独）接種が定期予防接種になります...

ポリオ（脊髄性小児マヒ）は、手足のマヒを起こす病気で、1950年代から60年代に日本でも大流行、母親たちの運動で生ワクチンが緊急輸入されました。
生ワクチンはウイルスの毒性を弱めたもので、効果の高いワクチンですが、お腹の中で増える過程で、まれに毒性の高いタイプに突然変異し、100万人に2〜4人がポリオになることがありました。そのため流行が終わった国では安全性の高い不活化ワクチンになっています。日本でも運動が広がり、不活性化への変更が要望されてきました。生ワクチン接種をせずに待っていた方もいます。予防接種法の改正が行われ9月1日から切り替わることになりました。



生ワクチンは接種回数が2回でしたが、不活性化ワクチンは4回になります。ですから、生ワクチンを2回飲んだ子は完了し、1回の子は不活性化を3回することになります。
（詳しくは、健康推進課、区報、ホームページで）

11月以降は三種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風）にポリオが加わって四種混合になります。

対象者には郵送で個別通知
健康推進課健康推進係
03-3802-3111 内線433

【他の予防接種について】

予防接種法による接種 任意接種で区補助あり
その他、現在行われている任意接種があります。

- BCG 麻疹風疹混合
- 日本脳炎 二種混合
- 小児用肺炎球菌 Hib
- おたふくかぜ みずぼうそう 子宮頸がん
- ロタウイルス
- B型肝炎 A型肝炎
- インフルエンザ



《再稼働は許さない・原発ゼロ...情報》

「反原連」と野田首相の会談が実現したが結局耳を傾けると言いながら「再稼働」に固執。「ガス抜き」とは言いたくありませんが、あまりにも国民の声を無視した姿勢です。

“国民の過半 原発ゼロ望む”

「国民的議論に関する検証会合」（座長・古川国家戦略相）の総括原案に盛り込まれた。これが国民の声です。これが実現するまで「再稼働反対」「原発ゼロ」声をさらに！

